

来年の議案にそのまま使える背景・目的

背景 2030年問題を地域課題として捉える

近年、少子高齢化や労働人口減少、価値観の多様化により、地域企業では人財不足や組織課題が深刻化しています。その原因は、多様な人財が活躍できる組織づくりへの対応不足にあります。これからは、2030年問題を自分事として捉え、多様な人財が活躍できる組織づくりへ主体的に取り組む状態にする必要があります。

目的 地域企業とともに2030年問題へ向き合う

地域企業が2030年問題を自分事として捉え、人財不足や組織課題の解決に向けて行動することで、多様な人財が活躍できる組織づくりへ挑戦する企業を増やすことを目的とします。

運動手法

① 地域企業課題見える化プロジェクト(事業)

地域企業やLOMメンバーを対象に、ダイバーシティスコアを実施し、「採用」「定着」「働きやすさ」に関する結果を集計・分析することで、自社が抱える組織課題や人財課題を可視化し、他の参加者とのディスカッションを通じて、優先的に取り組むべき課題や改善の方向性を明確にします。

② 2030年問題未来戦略(例会)

2030年問題や人財不足をテーマにしたセミナー・例会を開催することで、実際の企業事例や地域課題を共有しながら、「自社では何が課題なのか」「どのような取り組みが必要か」を参加者同士で考える機会をします。

③ 人財不足解決アクション(事業)

ダイバーシティスコアの結果を踏まえ、地域企業ごとに女性・シニア・外国人採用の見直しや柔軟な働き方の導入、社内コミュニケーション改善、社員定着に向けた制度整備など、人財不足解決につながる具体的なアクションにつなげます。

どんなLOMに向いてる?

地域の人口減少による人財不足を解決したいLOM

少子高齢化や人口減少による人財不足や組織課題に対し、地域企業とともに地域全体で向き合い、単発事業ではなく継続的な地域変革につながる運動を構築したいLOMに適しています。地域企業との関係性を深めることで、地域から必要とされるLOMへとつながります。

この運動をするとあなたの地域企業はどう変わる? 人財不足や組織課題に、主体的に取り組む地域企業へ

地域企業は、自社課題を客観的に把握し、多様な人財が活躍できる組織づくりへ主体的に取り組むようになります。その結果、人財不足や組織課題に地域全体で向き合う機運が高まり、LOMは地域企業の変革に伴走する存在として認識されるようになります。さらに、地域企業との継続的な関係性を通じて、挑戦と変革が広がる地域づくりへとつながります。

Point 運動構築におけるアドバイス

- ① まずは自分たちのLOMで実践する
例会や委員会活動の中で、まずはLOM自身が現状把握や組織課題の見える化を実施しましょう。
- ② 小さく始めて成功事例をつくる
最初から大規模に広げる必要はありません。地域企業3~5社程度からスタートし、成果事例を積み上げましょう。
- ③ “理念”ではなく“経営課題”として伝える
「良いことだからやる」ではなく、人財不足・採用難・組織活性など、企業が抱える経営課題と結び付けて伝えることが重要です。

